

団塊世代交流サロン・ミニフォーラムに参加して

Bコース〔土曜日 昼コース〕 平成20年2月

第1回 2月16日(土) 9:30~12:30

テーマ「団塊世代の地域デビュー」 NPO プラザにて 講師 野口稔氏

「団塊世代活動」の先進地である鎌倉から野口稔氏が来県されて、第2の人生を地域でいかに生きていくかを話された。退職後に地域活動にどのように溶け込むかその体験を話された。野口さんの報告内容を以下にまとめてみた。



地域に潜在する魅力 地域歴史風土の研究と地域密着
地域の人材交流 地域の人々の知恵と力の活用
地域まちづくりへ創造と行動 各要人の存在と活動支援
団塊サミットの提唱と実施 鎌倉団塊プロジェクト実行
委員参加
各地で団塊世代の活躍を期待 各地にそれぞれの人、物、
出会い、ふれあいがある。

野口さんは、永年メディアで鍛えた企画力と行動力が心身に脈々と培っているようで、「今後も何かするだろう」と思える。

事例発表(1) 波多野征継氏 JAぶんご大野理事 波多野ファーム

永年、農業関係に係る仕事柄の実績と農作物生産への関心度の高さを聞くことが出来た。波多野さんを囲んでのグループ討論会でも、野菜作り、椎茸、芋作りへの質問が出てきていた。参加者の農業への関心が高いことが良く解かった。

大分県経済連に勤務していた事から、農業に関係する人脈と知識の深さから、JAぶんご大野でも理事として活躍中である。農業の隅から隅まで知っている物知り博士のようにも見える。毎朝4時起きで畑仕事をするそうで、自然気象を相手に無理なく楽しく働く姿が伝わってくる。まだまだ元気に農業活動が出来そうだ。皆さん、近いうちにファームに立ち寄って元気になる秘訣とおいしい野菜をいただきます。



事例発表(2) 淵野光三氏 企業組合ソルテック代表者



県下大手建設企業を退職してからの生き方について報告された。会社側から予期せぬ急な退職勧告から事業を始めるまでの苦悩人生を語った。一生懸命に「会社のため」と好きな建築技術に身を置きながらの30数年後に会社人間の終わりが来たときの寂しさが伝わってきた。「会社とは何か？」を考えさせる報告でもあった。第2の人生を好きな建築技術から離れず企業組合を設立し、真に建築を愛するメンバーと共同経営をしていく真摯な姿勢に感銘した。

地域社会に認知されるまで暫く苦勞する時間が続きそうだが、淵野さんの夢の実現が期待される企業組合ソルテックである。

第2回 2月23日(土) 13:00~15:00

趣味講座「寄せ植えガーデニング教室」大本信子先生 大分市生石かたんサーカスにて



女性には大人気の講座であるのは間違いなかった。会場はご婦人たち40名の参加で賑わった。男性も7名ほどが慣れない手つきで花と土いじりしていた。大本先生のコンテナガーデニングの基本と楽しみ方をお聞きして作業に入った。土いじりは、とりあえず持ち前の我流が楽しく、1時間ほどで花植えは終わった。大本先生の心優しいご指導で心から可愛い生徒になった新鮮な気分でした。花植えは見かけも大切ですが、植えた花たちがしっかり生きていくように願ってしっかりと埋けました。私の作品が重さでは一番のようでした。

日頃しないことをして、楽しい趣味講座を実感しました。これからも花いじりをして花と親しんでいきます。



第3回 3月1日(土) 13:00~15:00 大分市片島のべっぴんものづくり学校にて ものづくり講座 燻製缶づくりワークショップ ベっぴんものづくり学校代表 中塚茂氏

燻製缶を利用したのものづくり体験には「男性が多く参加されるだろう」と思い込んでいたが、ここにも女性パワーが押し寄せた。広い施設を利用したのワークショップに約35名が来場し、用意した30缶は無くなりました。片島付近の道路は複雑で、さらに会場への道案内が充分でなく参加者には多くのご迷惑をかけたようだ。まず、燻製の美味試食で迷路のいらいら解消をしていただいた。



べっぴんものづくり学校中塚茂代表の挨拶で、「ものづくりにこれからの団塊世代が参加するように・・・」と要望があり、1缶で燻製缶づくり作業が開始した。事前に指導員の手伝いで80%ほど完成しており、リベット打ちや丁番付けで出来上がった。2時間ほどの短い時間だったが金槌打ちとリベット締めを楽しんでいただいたようで、やはり非日常的な作業は楽しい。

皆さん笑顔で自作の燻製缶をお持ち帰りでした。早速、使用して美味しい手製の燻製ものを御賞味ください。OBSTVの取材健ちゃんの「おおいた捕物帳」も入って賑やかで楽しい雰囲気の流れていました。

これをチャンスに「ものづくり」に共感し、関心がもてる団塊人材が出てくるだろう。



第4回 3月8日(土) 13:00~15:00 NPO プラザにて

テーマ「団塊世代のパワーで地域が変わる」辻野功先生



数年前から「大分学」を提唱し、大分の素晴らしさを力説している辻野先生が「団塊世代のパワー」に期待する講演だった。70歳になると言う先生だが、話しの内容は博学で若く柔軟な考えを持っている。他県から来て、大分の魅力を知らない地元人に落胆したこと、大分には賢人が多いこと、素晴らしいところが一杯あることを語った。今、団塊世代には、地域の市議員になって

「無給でもやる」などの政治活動をして地域を変えて欲しいと期待していた。健康で長生きでは、駄目だ。永く生きるより、ほど良い時期には死ぬことも大事なこと。「充実した人生を送り、60歳代をどう生きるか」「必要な存在になる(家庭でも地域社会でも)」「今までの人生の成果にしがみついたら駄目、これから人生の締めをいかに充実するか」とわれわれに投げかけた。60歳からの「生き方指針」が出来てきたようだ。



事例発表「宇佐市院内の地域づくり」OOTSU 企画大津雄慈氏

今、地域おこし成果で人気の安心院イモリ谷での地域づくりを題材にして苦勞の経緯と活動成果を報告された。

某デパートを早期退職し、大津さんの人脈と企画力で安心院の地域が動き始めた。リストラから人材と地域間に商品ニーズがタイムリーに起こったことを感じた。そこには、会社勤務の時から得た人間的信頼関係が根底にある。定期的に行っている一

般からの体験参加も好評でイモリ谷の人気を支えている。キーワード働ける、楽しめる、ネットワークを満足できて「三方良し」で作る人、売る人、買う人の関係作りが現在の存在になっている。さらに今後も仕掛けていくようで、「余谷」「隠山」のネーミングで企画しているプロジェクトに団塊世代の参加と大きな支援を要望した。

その後、短い時間だったがグループでの討論会があって、参加者それぞれの考えと生き方を聞くことで団塊世代共有の人生観と悩みで、改めて気付くことと共感することが多くあり、本日の講演内容とつながることで、納得した時間になった。



この第4回で、団塊世代ミニフォーラムBコースは修了したが、団塊世代の生き方には常に啓発と修正が必要だと考えている。今後も継続的にこのような体験型実習や学習、意見交換会が実施されることが必要であり、会を重ねることでセカンドライフの生き方が本腰になってくることを期待している。

(文 おおいた団塊くらぶ 齋藤光雄)